

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201136		
法人名	有限会社 ツェルン		
事業所名	グループホーム・オアシス		
所在地	千葉県柏市柏下218		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成24年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北柏駅より徒歩15分の便利な地にあり、大学病院や老人保健施設が隣接している為、緊急時には高度な医療の受診が可能である。また周辺には柏公園、ふるさと公園、文化会館なども近く、自然豊かで緑が多い為晴天時に行っている散歩では四季の移り変わりを肌で感じる事ができる。建物は平屋建て全館バリアフリーの安全な設計になっており、約8畳の個室と日当たり充分な談話室、中庭からの光を取り入れた開放的な造りは、入居者及びご家族にも好評である。特色としては、夏季は毎日の入浴、三食手作りの食事には家庭菜園の無農薬野菜も利用している。また夏にはホーム敷地内から見える手賀沼花火大会に合わせて納涼祭を行うなど、家族参加の季節行事も行っている。行事の際は入居者にもお手伝い頂いて、スタッフと一緒に食事作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「おだやかな笑顔と寄り添いあえる暮らしを私たちの心で応援します」という理念のもと、笑い声の絶えない明るく楽しい施設づくりに努めている。食堂や談話室は採光が良く、入居者が楽しめる明るい空間になっており、理念実現の一助にもなっている。施設内の中庭や畑は、入居者の活動や楽しみに繋がっており、心身機能の活性化が図られている。施設で採れた無農薬野菜の活用等食材にこだわった食事提供がなされており、食の楽しみや健康の増進を支援している。平成23年6月に医療連携加算体制が整備されており、医療機関や看護師の協力のもと、医療的支援の強化が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おだやかな笑顔と寄り添いあえる暮らしを私たちの心で応援します」を理念とし、常に目に入る場所に掲示している。笑い声の絶えない生活を送れる様に実践している	開設時に全職員で作成した理念を掲げており、日頃から理念の実践に努めている。理念は事業所内に掲示されており、全職員が理念を意識しながら支援を行っており、明るく楽しい生活が創造されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に職員が率先して近隣の方々と挨拶をしたり、農作物の提供などがある。立地的に住宅街と離れている為、今後地域の一員となれるよう努力したい	地域住民との交流やボランティアの受け入れ、自治会加入等を通して、地域との繋がりを大切にしている。中学生の職場体験やヘルパーの実習生の受け入れ等も行っており、地域貢献にも努めている。	施設の立地条件により難しい面もありますが、地域行事への参加や地域住民の施設行事への招致を実現し、より地域に根ざした運営がなされることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に開かれた施設として相談窓口を設置し、電話相談や突然の見学にも快く対応している。認知症の方に限らずご相談を受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3回行っており、ご家族の代表、地域の代表、地域包括支援センター職員の方にご参加頂いている。ホームでの取り組みをご報告すると共に、行事等にもご参加頂き実際に体験して頂いている	運営推進会議を通して、生活や活動状況の報告、意見・情報交換が行われており、施設の理解促進や運営及びサービスの質の向上に繋げている。運営推進会議を地域交流の促進に向け、施設活動の実施・工夫に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を取り、ご相談するように努めている。また市の連絡会を通じてでも顔を合わせる機会が多く、何でもご相談できる関係性を築けている。	業務相談や施設の状況報告等を随時行っており、連携を図っている。また、市と柏市グループホーム連絡会と協働しながら、認知症の方にやさしいまちづくりに努めており、相互にサービスの質の向上に取り組む体制が構築されている。その他、市職員の研修の受け入れ等も行っており、市と協働で地域福祉の活性化を行っている。	

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを設置し、年に1度研修を行い、職員に周知徹底を図っている。施錠に関してはドアベルを付けるなどして工夫はしているが、ユニットによりご家族の希望もあり、施錠を行っている箇所がある。防犯上の観点からも施錠の必要性を感じる	身体拘束排除における施設方針を掲げており、身体拘束のないケアが実践されている。また、さりげない見守りや対応の工夫により、安全な生活を支援している。日中は玄関や中庭に通じるドアが開放されており、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成し、年に1度職員研修を行うなど、職員には周知徹底をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在数名の方が利用しており、職員が相談を受けている。権利擁護については虐待防止と共に職員研修において学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書の内容を1つずつ読み合わせて確認すると共に、ご家族の質問や疑問をお伺いして充分にご理解頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは来所時や行事の際にご意見やご希望を伺い、頂いたご意見は会議等で職員と協議し、迅速な対応を心がけている。また、外部相談窓口を契約時にご案内すると共にホーム内にも掲示している	運営推進会議やアンケートの活用、面会時や電話等で意見や要望を確認している。家族への近況報告を通じた意見や要望の抽出に努めており、対応の改善や社会資源の活用等により、運営やサービスの質の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めに管理者との1対1の面談を行い、意見や要望を聞く機会を設けている他、月に1度の会議においても、積極的に意見交換を行っている。出された意見は検討し可能な限り反映させている	施設長や管理者が中心となり、会議や日頃の相談等を通して意見や要望を確認している。また、定期的に個別面談が行われており、面接シートを活用しながら業務内容や要望等を確認し、働きやすい職場環境づくりに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際には職員の休日の希望を聞き、有給休暇の付与など無理の無い勤務になるよう努めている。また、個人面談を行い、各自が向上心を持って働けるよう努めている		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内の研修等に参加している他、月に一度の会議では看護師が中心となってホーム内での研修も行っている。また、ケアの仕方やその時々問題となるものに対し、ケアの統一を図る為、研修・実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会で企画されるスタッフ交流研修会に参加し、他のホームの職員との意見交換する機会を設けている。管理者については他ホームの管理者同士で意見交換ができるよう配慮している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に初期は環境の変化による混乱、不安などが多く見られるため、常に気を配り、時間をかけて少しずつ慣れて頂けるよう配慮している。また、1対1での対応を心がけ、安心して頂ける関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、どんなに小さな相談にも耳を傾け、ご要望等をお伺いしている。また、来所時にはご本人の様子などをご報告すると共に不安に思っている事などをお伺いし、信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談時に聞き取り調査を密に行い、他のサービス利用の可能性も含めて柔軟な対応を心がけている。実際、他のサービス利用に繋がったケースもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かせるように、得意な事などをお伺いし、可能な限り日常生活における家事などを積極的にお手伝いして頂いている。一緒に生活を共にする家族や仲間のような関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡を取り合い、日常些細な事でもご報告しケアについてご相談している。何よりもご家族の支えが一番大切だという事をお話し、家族とスタッフの両方で支えている事を意識して頂けるよう努めている		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや、親しい方の来訪、外出など快く対応している。また、友人との手紙のやり取りや年賀状の作成など、関係の継続を支援している	家族との関係を大切にしており、面会・電話・外出・外泊等を通して、関係継続を支援している。また、年賀状や手紙の活用により、友人等との馴染みの人との交流も図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で参加できるレクやお散歩などを行い、孤立しないように声掛けをして参加できるように支援している。参加の難しい方には合唱などの場と一緒に居られるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族にご了解頂ける範囲で転居先に訪問したり、手紙でのやりとりがある。退所された方のご家族が訪問する事もあり、最近のご様子などもお知らせ頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にお話される事に耳を傾け、ケアマネが中心となって希望や意向の把握に努めている。思いを伝える事が困難な方は、行動や表情、言葉から推察してご本人の希望を汲み取るよう努めている	入居時の面接で本人や家族の意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、入居後は、日頃の会話や様子観察により、入居者一人ひとりの意向の把握に努め、その人らしい生活が送れるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族、ご本人からこれまでの暮らし方等、聞き取り調査を行い、会話の中から汲み取った内容もアセスメントに反映させている。アセスメントは職員全員が把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックを毎日欠かさずに行い、状態の変化が見られた場合は看護師に相談したりと迅速に対応している。何気ない会話の中でも変化などが無いか常に観察し、個人記録に記入、職員全員が把握している		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で全員でケース検討を行い、本人の状況に合わせた介護計画を作成している。作成した介護計画はご家族に確認して頂き、ご意見を反映させている。また、ご家族の希望があれば参加も可能である	各入居者の居室担当が決められており、担当職員が中心となり、情報の収集及び共有に努めている。入居者及び家族の意向を踏まえた上で、職員間で意見交換や検討を行い、介護計画を作成している。また、必要に応じて、介護計画の評価や見直しが行われており、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を細かく個人記録に記入し、特に大切な事は必ず連絡ノートに記入している。出勤したらまずノートを確認する事を義務付けており、情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	暮らしの中で利用者に何が必要なのかを考え、その時々でできる範囲で柔軟に対応している。現在、在宅の訪問マッサージのサービスを利用している方がいる他、趣味の継続にはボランティア利用もしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑づくりや、囲碁・紙芝居など多様なボランティアの方に毎月ご訪問頂いており、日常生活の中でも楽しんで頂けるような工夫をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科、週1回の歯科の往診があり、本人・ご家族のご希望を聞いてご利用頂いている。他に希望する医療機関がある場合はそちらを利用できるように支援している	協力病院を中心に、希望に応じた受診支援がなされている。また、定期的に内科医及び歯科医の往診や看護師による健康状態や服薬状況の確認が行われており、適切な健康管理や医療支援が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、各ユニット1回ずつ看護師が勤務し、心身のチェックや薬の管理を行っている。日々のケアの中で気になった事や変化についても随時報告し、指示を仰いでいる		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供や、生活状況を詳しく伝え、退院時には看護サマリーを提供して頂き、看護師を中心に情報交換を行っている。退院後の注意点なども病院から情報を頂き、スタッフ全員が把握できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	既に全入居者ご家族から重度化・終末期に向けた方針についてご説明して署名を頂いているが、状況に変化が生じた場合にはその都度面接を行い、その時々状況とケアの方針を相談し合って書面にて確認をしている。また、有識者の協力を仰ぎ、スタッフの研修にも力を入れている	重度化及び終末期の対応指針を定めており、契約時に説明を行い同意を得ている。また、対応方法等については、入居者の状況に合わせて段階的に家族の意向を確認している。医療連携加算体制の整備や医療機関との連携、看護師の24時間対応により、医療連携の強化が図られており、施設としてできる限りの支援の実践に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、消防署から応急救護の指導を受けているが、実際の急変時に対応できるよう、緊急時マニュアルを作成し、会議時に復習・訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回ホーム内で避難訓練を行い、避難方法を理解し、実践できるように努めている。緊急時には近隣に住むスタッフに駆けつけてもらえるよう協力をお願いしている。	定期的に、夜間想定を含めた消防避難訓練を実施している。また、火災や地震に備えた設備環境やマニュアルの整備により、適切な災害対策がなされている。今後、災害時を想定した炊き出しの実施も計画されている。災害時には、近隣に住んでいる職員及び職員の家族に協力を要請できるようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年度の初めに職員全員が職員行動指針を読み返し、日頃の自分の対応を振り返る機会を作っている。一人ひとりに合った対応、言葉かけをするように日頃から心がけている。	会議や個別指導等により、入居者一人ひとりの尊厳に配慮した接遇に努めている。また、会話の内容や会話をする場所などにも注意を払っており、プライバシーの保護にも努めている。	

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の話に耳を傾け、スタッフに何でも話せる信頼関係を築くように努めている。自己決定が難しい場合は、本人の希望を可能な限り汲み取る努力をしている。一対一で話したい場合は自室で話を聞くなどの配慮もしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた時間に沿ってで過ごす事はなく、毎日の生活はその日の気候や気分によって一人ひとりが自分のペースで快適に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用したり、毎朝のヘアセット、お化粧などができるように支援している。また、資生堂の化粧療法も取り入れ、今後も定期的に行う予定である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いのできる方に無理のない範囲で配膳・下膳等のお手伝いをお願いしている。メニューを相談したり、誕生日の際にはご希望に応じた特別メニューを提供するなどして楽しんで頂けるよう心がけている	食事の準備や片付けについては、可能な範囲で入居者と職員が共同で行っている。献立は入居者の希望を取り入れながら作成されており、施設の畑で栽培された野菜や旬の物、こだわりの食材等を活用した栄養バランスの良い食事が提供されている。その他、行事食や特別食の提供や外食会が実施されており、入居者の食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に記入し、偏りの無い食事作りを心がけている。食事摂取量と、必要な方は水分記録して職員全員が把握できるようにしている。又、状態に応じてとろみ・ミキサー・きざみ食など柔軟に対応をしている		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に必ず口腔ケアを行い、能力に合わせて見守り介助をしながら歯磨き・義歯洗浄をしている。週に1度歯科の往診があり、異常のある場合は受診が可能な他、衛生士によるブラッシング指導や定期的な診察も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、個人に合ったさりげない声掛け、トイレ誘導、介助を行っている	排泄パターンの把握により、入居者一人ひとりに合わせた支援が行われている。また、表情やしぐさを確認しながら、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。排便についてはカレンダーを活用しながら確認しており、必要に応じて医療職と相談しながら、適切なコントロールができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、スムーズな排便を促せるよう対応している。また、こまめな水分摂取や乳製品・野菜の摂取なども心がけている。室内のエロバイクや、個別での散歩など適度な運動も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は毎日、冬場は隔日の入浴を行っており、個人個人のタイミングに合わせた入浴を心がけている	入居者の希望に応じた入浴支援がなされていると共に、必要に応じて部分浴・シャワー浴・清拭等が実施されており、適切に清潔が保持されている。浴室環境が整備されており、身体状況に合わせた安全な入浴支援ができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて、昼寝を勧めて休んで頂いたり談話室など休息できるスペースを設けて思い思いに休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬のファイルや手帳があり、種類や作用が分かるようになっている。誤薬を防ぐ為、看護師が管理し、薬カレンダーを作成し利用している		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、できる範囲で配膳や掃除のお手伝いをして頂き、役割を持つ事で生活に張り合いを持てるよう配慮している。ユニットによっては難しい状況もあるが、散歩や外出などで気分転換を図る機会も設けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レベル低下により、ユニット全員での外出が難しくなってきたので、数名ずつの個人外出、外食を定期的に行っている。また、年に1度企画される連絡会での春のバス旅行に参加し、遠出も可能になった。	散歩の実施や施設の中庭・畑の活用により、日頃から戸外での楽しみを支援している。また、合同での外出会や個別の外出支援が行われており、希望に応じた柔軟な支援が行われている。柏市グループホーム連絡会の合同行事にも参加しており、外部との交流も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前にトラブルがあった経緯があり、現在ではホームで立替払いを行っている。外出の際や、お散歩時にスタッフ付き添いの元、支払いをしてもらう機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りを希望された場合はすぐに対応している。また、家族や友人からの電話も取り次ぎ、お話ししてもらっている。手紙はお返事を書いてもらうように声掛けし、年賀状はスタッフが見守りながら作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室や食堂は中庭からの光が入り、明るい空間になっている。玄関や談話室、食堂には季節感のある飾りや、花などを飾っている。浴室、トイレ等は清潔感に気をつけ、温度差にも配慮している	施設内はバリアフリーとなっており、十分に介助スペースが確保されており、安全面に配慮したつくりとなっている。また、食堂や談話室は採光が良く、入居者が楽しめる明るい空間になっている。施設内に行事等の写真や入居者の作品等が掲示されており、日頃の活動が入居者や家族に伝わるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室などの共有スペースで、お茶を飲んだり気の合う仲間とすごせるようになっている。日当たりの良い場所で、日光浴をしたりと思い思いに過ごされている。		

【千葉県】グループホーム オアシス

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた家具や思い入れのある物を使用していただき、心地よい空間を作れるよう配慮している。火気を除き、仏壇などを持ってきている方も多い。	入居者・家族の希望に応じた居室づくりが可能になっており、居心地良く生活ができるように配慮している。ナースコール、洗面台、居室の鍵が設置されており、必要に応じて使用できるようにになっている。また、エアコンによる適切な空調管理がなされており、快適に過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーになっており、浴室、トイレ、廊下には手摺がある為、なるべく自分の力で移動できるよう配慮している。各所にネームプレートがあるが、分かりにくい方には立体のプレートを作るなど工夫している。		